

肝炎ウイルス検査の実績について

公益財団法人鳥取県保健事業団 ○山下裕子 西川清司 富山眞弓
 長谷川利恵 石河徹也

【はじめに】

鳥取県は肝臓がんによる死亡率が高く、平成 22 年度には 75 歳未満年齢調整死亡率が全国ワースト 1 位を記録した。肝臓がんの原因として肝炎ウイルスの持続感染が挙げられ、本県では全国に先駆けて平成 7 年度から肝臓がん検診として肝炎ウイルス検査を行っており、検診により発見された陽性者に対して、医療機関で定期的に受診できる体制となっている。

今回、当事業団で実施した平成 25～30 年度の肝炎ウイルス検査の実績についてまとめたので報告する。

【対象】

市町村の肝臓がん検診及び県の医療機関委託無料肝炎ウイルス検査を希望した男性 6,315 人、女性 8,437 人、計 14,752 人のデータを用いた。

【検診内容】

問診：既往歴・手術歴・輸血歴等

肝炎ウイルス検査：HBs 抗原・HCV 抗体

【結果】

平成 25～30 年度の年代別受診者数を「表 1」に示す。平成 26 年度は受診者数が増加しているが、これは前年度途中から開始された県の医療機関委託無料肝炎ウイルス検査の受診者が増えたためと思われ、40 歳未満の受診はすべて県の制度を利用した受診となる。希望すれば職場での健診時に肝炎ウイルス検査を無料で受けることができるようになったが、平成 26 年度をピークにやや減少傾向である。各年度とも 60 歳代の受診者数が多くなっているが、男性は 60 歳代が最も多いのに対して、女性は 40 歳代が最も多かった。

HBs 抗原検査の陽性者数を「表 2」に示す。60 歳代の陽性率が 1.88% と最も高かった。性別では 60 歳代を除き各年代とも男性のほうがやや高く、全体で陽

年度	受診者数		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代		70歳代		80歳代		90歳代	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
H25	2375		7		81		244		625		584		693		131		9		1	
	1049	1326	2	5	27	54	110	134	252	373	218	366	367	326	70	61	2	7	1	0
H26	3627		5		105		329		979		869		1102		217		19		2	
	1557	2070	5	0	49	56	147	182	385	594	325	544	542	560	93	124	11	8	0	2
H27	2515		4		34		163		722		619		812		139		21		1	
	1054	1461	2	2	18	16	63	100	250	472	239	380	385	427	83	56	14	7	0	1
H28	2177		0		22		147		616		449		782		150		10		1	
	910	1267	0	0	9	13	61	86	221	395	144	305	393	389	76	74	6	4	0	1
H29	2078		0		36		153		619		378		683		183		25		1	
	892	1186	0	0	16	20	57	96	210	409	149	229	356	327	89	94	14	11	1	0
H30	1978		2		10		128		604		336		716		175		6		1	
	852	1126	1	1	4	6	50	78	216	388	124	212	362	354	92	83	2	4	1	0
計	14750		18		288		1164		4165		3235		4788		995		90		7	
	6314	8436	10	8	123	165	488	676	1534	2631	1199	2036	2405	2383	503	492	49	41	3	4

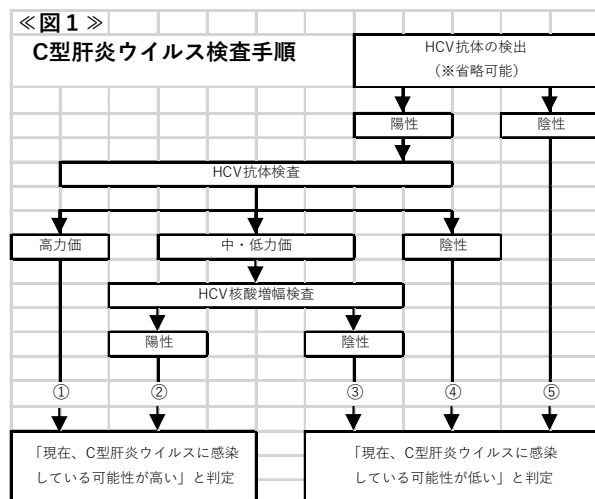
性率が 1.59%と女性の 1.12%と比べ高かった。

C型肝炎ウイルス検査の検査手順を「図1」に示す。HCV抗体検査において高力価または中・低力価を1次検査陽性とし、中・低力価のものはHCV核酸増幅(HCV-RNA)検査を実施する。高力価またはHCV-RNA検査陽性のものを「現在C型肝炎ウイルスに感染している可能性が高い」と判定し、健康指導対象者とし、HCV抗体検査陰性またはHCV-RNA検査陰性のものは異常なしとする。

C型肝炎ウイルス検査の陽性者数を「表3」に示す。1次検査陽性率・HCV陽性率ともに年齢があがるにつれて高くなる傾向にあり、80歳代では1次検査陽性率2.25%、HCV陽性率1.12%と顕著に高くなっている。1次検査陽性率は40～50歳代では男性の方が高いが60歳以上では女性の方が高く、男女の差があるとは言いが、HCV陽性率は70歳代を除き男性の方が高い傾向にあり、女性の方がHCV-RNA検査で陰性になる率が高かった。

「表2」 HBs抗原検査陽性者数

	受診者数		陽性者数		陽性率(%)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
10歳代	18		0		0.00	
	10	8	0	0	0.00	0.00
20歳代	288		2		0.69	
	123	165	2	0	1.63	0.00
30歳代	1163		5		0.43	
	487	676	3	2	0.62	0.00
40歳代	4159		31		0.75	
	1531	2628	17	14	1.11	0.53
50歳代	3229		50		1.55	
	1196	2033	25	25	2.09	1.23
60歳代	4779		90		1.88	
	2403	2376	43	47	1.79	1.98
70歳代	995		18		1.81	
	503	492	11	7	2.19	1.42
80歳代	90		0		0.00	
	49	41	0	0	0.00	0.00
90歳代	7		0		0.00	
	3	4	0	0	0.00	0.00
計	14728		196		1.33	
	6305	8423	101	95	1.60	1.13



「表3」 C型肝炎ウイルス検査陽性者数

	受診者数		1次陽性率(%)		RNA陽性率(%)		HCV陽性率(%)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
10歳代	18		0.00					
	10	8	0.00	0.00				
20歳代	287		0.00					
	122	165	0.00	0.00				
30歳代	1164		0.00					
	488	676	0.00	0.00				
40歳代	4165		0.29		25.0		0.07	
	1534	2631	0.46	0.19	28.6	20.0	0.13	0.04
50歳代	3232		0.34		45.5		0.15	
	1196	2036	0.42	0.29	60.0	33.3	0.25	0.10
60歳代	4785		0.86		31.7		0.27	
	2404	2381	0.79	0.92	47.4	18.2	0.37	0.17
70歳代	994		1.91		21.1		0.40	
	502	492	1.39	2.44	0.0	33.3	0.00	0.81
80歳代	89		2.25		50.0		1.12	
	49	40	2.04	2.50	100.0	0.0	2.04	0.00
90歳代	7		0.00					
	3	4	0.00	0.00				
計	14741		0.58		30.6		0.18	
	6308	8433	0.62	0.55	38.5	23.9	0.24	0.13

【考察】

市町村の肝臓がん検診は40歳以上が対象となるが、男性の受診者数は60歳代が最も多くなるのは働き世代が受診できていないためであると考えられる。

HBs抗原・HCV抗体検査の陽性率は、どちらも年齢とともに高くなり、男性の方が高い傾向にあった。平成7～11年度の実績ではHBs抗原陽性率が40歳代で高く年齢とともに低下する傾向にあったことから、現在の60～70歳代の世代に陽性者が多いと推測される。

【まとめ】

肝臓がん検診は、肝炎ウイルス検査陽性者を早期に発見し精密医療機関での定期検査を受診することで肝臓がんの早期発見・早期治療につなげることを目的としている。県の制度を活用し、働き世代の受診率が向上することが期待される。